

平成30年度第2回長崎県後期高齢者医療広域連合懇話会 開催結果概要

- 1 開催日時 平成30年12月18日（火）14時00分から15時50分まで
- 2 開催場所 長崎市栄町4番9号 長崎県市町村会館 4階 第2会議室
- 3 出席委員 7名
山崎会長、徳永委員、白川委員、知念委員、藤井委員、佐田委員、井手委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議の概要

（1）議題等

健康寿命の延伸に向けた取り組みについて

（2）委員からの主な意見

健康寿命の延伸に向けた取り組みについて

- ①健康寿命の捉え方は全国同じ尺度なのか。
- ②寝たきりで寿命を迎えたくないの、自分で努力しながら色々な事に挑戦して寿命を延ばしていきたい。
- ③フレイルとは、高齢者が急激に体が弱っていくのではなく、栄養が不足したり社会との接点がなくなってきたり等いくつかの要素によって弱っていくものである。
- ④健康寿命の延伸で大きなポイントとなるのは、自分が社会に役立っているという実感を持っていることである。
- ⑤フレイルの原因は、単に整形外科的な筋力が低下してきているという問題だけではないので、食生活や栄養状態等をきちんと管理しないといけない。
- ⑥フレイルとは、がちとしたものではなく、日常生活の中において、医療や介護の手前の段階からどう関わっていくべきかということが大事である。
- ⑦高齢者のフレイル状態を把握するためには、チェックリストを利用した取り組みが効果を生むと思う。
- ⑧県内では、全国のモデル事業として介護予防を含めた取り組みを行っている地域もあるが、地域により問題点は異なるため、それを確認して解決していくことが地域間の格差解消に繋がる。
- ⑨保健事業と介護予防の一体的実施における事業全体のコーディネーターとは、地域包括支援センターの地域コーディネーターと関係性があるのか。
- ⑩健康寿命を延ばすためには、医療・介護データの解析は重要であるが、将来的に市町が持っている様々な情報を含めたデータが一体化されることになれば、必要な分野のデータが即座に利用できるようになる。
- ⑪被用者保険では、企業として事業所と一体になったコラボヘルスを自助努力で進めている。
- ⑫市町の専門職配置だけではなく、地域で問題意識を持っている職域団体等にも広がるような取り組みを期待したい。